

仁礼っ子だより



校長講話 なかよし旬間

仁礼小学校の3つの目指す子ども像には「多様性を認め合い共に育つ子ども」があります。6月15日からなかよし旬間が始まっていますね。各学級で人権について、なかよしやいじめについて、学習をしてきたと思います。今日の校長講話はそのことについてお話しします。

まず始めに、ある詩を紹介します。これはIという大学の先生が書いた本の中にある文章です。さて、「みんなおなじだったら」どうなってしまうでしょう。みんな同じになる世界がいいと思う人はいますか？でも、実際には一人として同じ人はいません。みんな違いますね。ここにいる皆さんは、一人一人が、好きなこと、嫌いなこと、得意なこと、苦手なこと、嬉しいこと、他にも色々、全部が違っています。中には好きなことが一緒、とか得意なことが一緒、という人もいるかもしれませんが、何もかもが全部同じ人は、一人もいません。みなさんの好きなことは何ですか？心の中で思い浮かべてみてください。

たとえば、校長先生の好きなことを紹介します。きれいな絵や物を見ること。時々美術館にいきます。仲のいいお友達と会ってお話をたくさんすること。ドライブをしてきれいな景色を見たり、自然の中で体を動かしたりすることなども好きです。では、苦手なことはなんでしょう。校長先生が苦手なことは、たくさんあります。覚えるのはわりと早いんだけど、ずっと覚えておくことが苦手です。それから、同じことをずっと続けていくことも、苦手だと思っています。皆さんの苦手なことはなんですか？

では、苦手なことがあるときは、どうしたらいいかな。頑張っても苦手なことが得意にならないこともあるよね。そんな苦手なこと、弱いことがあるのはいけないことなのかな。

ここで、さっき紹介した「みんなおなじだったら」という本にある別の文を紹介します。(一部抜粋)

この文には「よわいところでつながっていく」というタイトルがついています。私たちは一人ひとりが違います。そして、みんな弱いところを持っています。もしも一人でも完璧で何も助けてもらわなくてもいいのなら、人と人はつながっていけるのでしょうか。「ハチが菜の花に蜜を作ってもらって、菜の花はハチに花粉を運んでもらっている」ように、みんなちがっていて、弱いところを持っているから、お互いに助け合い、つながってけるのです。弱いところ、苦手なことがあることは悪いことではないと先生は思います。教室に帰ったら、友だちと自分の苦手なこと、弱いところについて話してみてください。自分の得意なことで、友だちの苦手なことを助けてあげられるかもしれません。そして自分の苦手なところを誰かが助けてくれるかもしれません。校長先生も、苦手なことを教頭先生や先生方、家族にたくさん助けてもらっています。そして、得意なことで、誰かを助けられたらいいなと思っています。

仁礼小学校では、一人一人が違うことを大切にしていきたいでしょう。そしてお互いの弱いところ、苦手なことを助け合っていける、素敵なたつなかりをたくさん作っていきましょう。

